

抗HIV薬予防服用同意書

以下の確認事項に従いHIV汚染血液等暴露後の抗HIV薬予防服用説明書をよく読み、服用の意義等について確認してください。

=チェック欄

服用の意義について

感染直後に抗HIV薬を服用することで、100%感染を防げるわけではありませんが、感染のリスクを約80%低下できるといわれています。複数の抗HIV薬を服用すればさらに効果的であると考えられます。

服用にあたっての注意点について

感染予防の効果を上げるためには、初回の服用は、事故後できるだけ早くできれば1～2時間以内に予防薬を服用するのが望ましく24～36時間以後では効果が減弱する可能性があります。予防服用は、暴露事故等の受傷後4週間の継続服用が必要です。

妊娠の可能性のある場合について

抗HIV薬の服用については、特に妊娠初期(最後に月経のあった日から14週間)の胎児に対する安全性は確立されておりません。

予防服用される抗HIV薬の注意点及び副作用について(詳細は添付書類参照)

●RAL:アイセントレス錠

- ・皮膚粘膜眼症候群、薬剤性過敏症症候群や過敏症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には、投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。
- ・その他の副反応として、横紋筋融解症、ミオパチー、腎不全、肝炎、胃炎、陰部ヘルペスなどがある。

●TDF/FTC:ツルバダ配合錠

- ・B型慢性肝炎を合併している患者では、投与中止により、B型慢性肝炎が再燃するおそれがある。
- ・腎不全・腎機能障害が発生することがある。特に慢性肝炎、腎機能障害を持つ場合は、薬剤の変更を考慮する。
- ・その他の副作用として、悪心、下痢、疲労、頭痛、皮膚色素過剰などがある。

確認事項に従い感染予防のための服用についての説明文書を読みました。

予防服用の重要性を理解し、服用を希望します。

はい いいえ

年 月 日

医療機関名
部 署 名
氏 名